

都小社研5年部会 研究授業部会提案

小单元「低い土地の暮らし」(授業者 渡辺 大介 先生)

令和3年6月17日(木)

世話人 草薨堅太郎(世田谷・瀬田小)

○本実践のテーマ

国土単元で培った見方・考え方を働かせることで、

その後の5年生の社会科の学習に「つながる」授業を!

研究内容①「主体的に追究する問いの工夫」

【子供の思考に基づいた問いの工夫】

①本実践では、「まとめる」段階の第7時(本時)を国土単元とその後の5年生の社会科学習をつなげる1時間と設定した。今回の授業検討において、4年生の東京都で学習したこと、5年生の地形や気候に特色ある地域で学習したことが、5年生の社会科学習全体でどのように繋がっていくのか、と意識して実践していくことがとても重要ではないかと部会では考えた。

4年生の学習、国土単元の「気候条件に特色がある地域」「地形条件に特色がある地域」で培った社会的事象の見方・考え方を働かせながら問いを追究できるように、既習内容と比較しながら学習を進めることを意識して単元構想、小単元の指導計画を作成した。

特に本時においては、北海道や津市の人は「自然環境に適応して生活している」という共通点を基に、「日本の他の地域に住む人々は、どのように暮らしているのだろうか」という問いを設定することで、その地域の地形条件や気候条件をふまえて、「どんな産業が盛んなのだろうか?」「同じ高い土地でも、くらしや産業に違いはあるのだろうか?」「港がありそうだから、水産業が盛んだと思う。」など子供たちは追究すると考えた。その際、日本の地形図や雨温図など既習の資料を活用することで、改めて地形条件や気候条件を踏まえて予想し、今後の5年生の学習でも、その土地で「なぜ、その産業が盛んなのか」、「その土地で起こりやすい自然災害は何か」といった見方・考え方が培われていくと考えた。

4年生 「自然災害から人々を守る活動」

→自然災害に対して、様々な協力をして対処してきたことや今後想定される災害に対し、様々な備えをしている。

東京都「自然環境を生かした小笠原の人々の暮らし」

→人々が協力し、特色あるまちづくりや観光などの産業の発展に努めている。

5年生 国土単元「寒い土地の暮らし」

→北海道に住む人々は、気候条件に適応したり、生かしたりして生活している。

国土単元「低い土地の暮らし」

→津市に住む人々は、自然条件に適応したり、生かしたりして生活している。

本時 日本の他地域に住む人々も、自然環境に適応して暮らしていて、気候や地形を生かした産業が行われているはずだ。今後の社会科の学習でも自然条件に注目して学習していこう。

自然環境に着目して、産業や自然災害、自然環境の学習を追究するための素地を育む1時間にしたい!

②主体的に学習に取り組む態度の育成

「調べる」段階においては、教科書、資料集、場合によってはインターネットで調べた資料、教師作成の資料を基本として、1時間の問いに対して児童に資料選択がある程度自由にできるようにした。また、昨年度から世田谷区で使用している双方向授業支援アプリ「ロイロノート」の画面共有機能を活用することで、1時間の学習の「まとめ」(分かったこと)や振り返り(自己の学び方)を友達の考えを参考にしたり真似をしたりして自分で再構成できるように工夫した。

研究内容② 「見方・考え方を働かせる学習活動の工夫」

①見方・考え方を働かせた学習問題の設定と予想や学習計画の検討

前単元「寒い土地の暮らし」や4年「ゆたかな自然を守り生かす小笠原村」の学習を想起させることで、低い土地の暮らしでも、生活を改善しようとしたり、地形条件を生かした農業や観光などが行われているのではないかという問題意識を高めたい。

低い土地での暮らしをイメージできるように、4年の学習でも活用しているハザードマップを資料として調べたり、屋根よりも高い位置を走っているトラックの写真を「つかむ」段階で資料として用いることにした。

②視点に着目して調べる活動

前単元でも調べた「生活(工夫や対策)」「農業」「観光業」の3つの視点で調べ学習を行う。そうすることで、「寒い土地と同じように～」「寒い土地と比べて～」という比較して考えられるようにした。

③調べたことを思考ツール・Yチャートにまとめる活動

1時間ごとに調べたことは、Yチャートに書き溜めていくことで、総合して考え、学習問題を解決できるようにした。

研究内容③ 子供の学びを確実にする評価の工夫

①「まとめる」②の評価について

本時の評価は、主体的に学習する態度②という位置づけにし、「学習してきた子を基に、日本各地の暮らしの様子を予想し、他地域への興味・関心を高めている」とした。一般的に言われている評価規準では、態度①「主体的な問題解決」、態度②「よりより社会を考えようとする」となっている。

しかし、今回の実践においては、「寒い土地や低い土地で暮らす人々は、自然環境に適応して生活している」ということを踏まえて、「他地域の生活は、どんな暮らしをしているのだろう」「高い土地で暮らす人々の生活は?」「暑い土地でさかんな産業は?」と自然条件に着目して考えることで、その後の5年生の学習への興味・関心を高め、小単元を越えて、深く学べる子供に育つのではないかと考えた。

単元を越えて、既習内容を生かして考えられるように育てることで、扱う単元や社会的事象が違って、学びを「つなげる」という形での態度の評価があってもよいのではないかと考えた。指導者が、1年間の学習を見通して、どんなことに着目して子供に学習させるのかと授業をデザインしていくことで、子供たちは、前の学習での見方・考え方を働かせて考えることで深く学ぶことにも気付くのではないだろうか。

本時の評価については、部会独自の提案となるので、様々なご意見を伺いたい。

【児童のノートより】

